

# 災害時に不自由な人が 安心して避難するには

2年  
熊谷 月奈

## <課題設定理由>

福祉体験を通して、体の不自由な方が、災害時に避難所で何が困るのか気になったから。

## <仮説>

もし近所に体の不自由な人がいたら、日頃から挨拶など「コミュニケーション」を取ったら良いのではないか。

## <調査方法>

インターネット、市役所へのインタビュー

## <分かったこと>

- ① 障害者の死亡率(災害時は) 健全者の2倍以上
- ② 宮城県の東日本大震災での死者数は9471人、そのうち障害者は1028人(死者数の約1割)

### 聴覚障害

- ・困ること
- ・外見から分かりにくい
- ・音声による情報が伝わりにくい など



身振りや指さして危険を伝えたり、口を大きくゆくりとあけて話したりする。

### 視覚障害

- ・困ること
- ・存在に気づいてもらえない
- ・どのような状況なのか不安 など



短い文で伝えたり、今どのような状況なのかを伝えたりする。

## <考察>

すべてを支援してあげるのではなく、相手から助けを求められたときに、支援しながらいっしょに助け合っていくことが大切だと考えた。

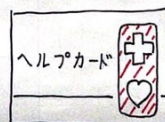
## <まとめ>

防災においてコミュニケーションは不可欠になってくると分かった。

## <提言>

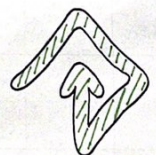
障害を提示するアイテムを身につけたら良いのではないかな

(例)



耳マーク

(聴覚障害者であることを示す)



ヘルプカード

(支援してほしい内容を記載して示す)